

平成21年11月16日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日 時	平成21年11月16日(月) 午後3時30分
場 所	教育委員会室
開 会	午後3時30分
閉 会	午後4時39分
出席委員	
委 員 長	高 木 新 太 郎
委 員	高 杉 政 宏
委 員	横 井 利 男
委 員	鈴 木 み ゆ き
教 育 長	久 保 孝 之
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	坂 本 康 治
庶 務 課 長	後 藤 隆 宏
学 務 課 長	石 井 秀 和
指 導 室 長	仁 王 紀 夫
すみだ教育研究所長	須 藤 浩 司
生涯学習課長	福 山 弘
スポーツ振興課長	郡 司 剛 英
あずま図書館長	渡 邊 久 尚

2 会議の概要

高木委員長 それでは、教育委員会を始めたいと思います。本日の会議録署名人は鈴木委員にお願いいたします。

教育委員会会議録(平成21年7月27日、9月7日、9月28日、10月1日)の確認

議決事項第1

議案第58号「平成21年度墨田区一般会計補正予算(第5号)案に関する意見の聴取について」

の案件を上程し、庶務課長、学務課長、スポーツ振興課長が説明する。

高木委員長 この就学援助費なんですけど、これは景気が悪いせいもあるかと思うんですけど、やっぱり上昇傾向なんですけど。

学務課長 昨年度までは、経済情勢が若干上向き加減が続いてきたということで、2～3年減少傾向にありました。しかしながら、昨年秋、リーマンショックといわれた以降は経済情勢が下がっていますので、本年度中学校についてはかなり増加しています。今年度につきましては、今年の住民税を基準にしていますので、昨年の収入に基いた結果ですから、昨年はまだ前半は好況であったといわれていますので、まだ収入の減は顕著ではないということです。ところが、来年度につきましては、今年の収入を前提に認定をいたしますので、さらに来年度以降に収入が下がることによって、認定者が増えていくのではないかとこのように思っております。

高木委員長 それから新総合体育館のPFI事業費ですが、これはマックスの金額での計上ということなんですけど、削られる可能性もありますよね。

スポーツ振興課長 はい、あります。しかし、歳入歳出ともマックスで計上しておかないと、支出できませんので。

高木委員長 他に何かご質問はございますか。よろしいでしょうか。それでは議決事項第1、議案第58号、「平成21年度墨田区一般会計補正予算(第5号)案に関する意見の聴取について」は原案どおり回答することにしたいと思っておりますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高木委員長 それでは、原案どおり決定いたします。

議決事項第2

議案第59号「平成22年度における主要な教育課題について」の案件を上程し、指導室長が説明する。

高木委員長 大きい内容ばかりなので、かなり大変だと思いますが、やはり目標を立てておかないと次には進めませんから。具体的に示されているものと抽象的なものがありますよね。例えば7ページの学力の向上の3つ目、これはきちんと書かれている。「小学校における英語活動を50時間実施する」などこういうのは非常に具体的に書かれていて、指導室及び教育研究所の意気込みを感じるんですよ。

次長 ある意味では、教育委員会として具体的な事例をお示しして、各学校でそれに沿って取り組んでもらう必要がある。また、ある程度事務局側で抽象的な目標を掲げて、各学校の努力を促すようにする。そういうことで、それぞれの書き方が若干異なっているわけです。より具体的な数値を挙げたほうが、各学校でも具体的な計画として落とし込みやすい。というのもあって、こちらからお示するという事になっています。

高木委員長 学力向上なんて今まで重点的にやってきたわけだし、こういう方がいいんだろうと思います。

次長 その下にある体力向上につきましても、非常に問題になっておりますので、少し踏み込んで「こういうことをやってみたらどうか」というところで具体的な事業が入っています。あとは各学校において、それぞれの事例を参照しながら、各学校の現状とか特色に応じて具体的な取組みをしていただ

くということになると思います。そういう意味で22年度は事務局としても力を入れたいし、各学校にも力を入れてほしいというものを示したものです。

横井委員 今、例に出た英語活動ですが、説明資料でこういうふうに書かれているということは、これ以外も想定しているのか、それとも「ALTを活用した30時間」「教員による20時間の授業」というのは既定の事実というか、半強制なんでしょうか。

指導室長 来年度は小学校においては移行措置の2年次ということになっていますので、教育委員会でもご説明させていただいていますが、通常バージョンでは小学校で来年度は最低でも35時間の英語活動になります。「本校では英語活動に力を入れたいので50時間で実施する」という教育課程の作り込みも出来ますといった、あくまでも例示として受け止めていただきたい。

横井委員 そうすると、最低時間がこの50時間ではなく35時間であるということも有り得るのか、それとも「出来るだけそうならないよう」というご指導があるということなんでしょうか。

指導室長 それは各学校との相談ということになりますが、35時間というのは区の全体の最低基準となっています。例えば「うちの学校は言語活動に力を入れたい」とか「算数や理科に力を入れたい」あるいは「英語を全面的に出したい」といったアレンジメントは出てくるだろうと思います。だから、英語は最低限35時間で他の部分も特段の打ち出しはないという内容にしたいというふうに思っています。

横井委員 前から時々お話をさせていただいているように、隣接する小学校での時間数の差が大きすぎた時に、例えば、その子ども達が想定される学区の中学校へ行った場合の経験の差のようなものに対する配慮が、今度は中学校に対して期待されるようになりますよね。

指導室長 委員ご指摘のように、元々研究所の所管ということで幼小中の連携をやっておりますので、当然独自色を出す場合にはその学校の置かれているブロックの近隣の中学校、小学校で言えば中学校・幼稚園との連携は欠かせないと思っています。同時に、同じブロック内で小学校であれば、近隣の小学校との連携や打ち合わせが必要になってくるだろうということは考えております。

鈴木委員 3番目に朝読書のことが書かれており、とてもいい案だと思います。学校図書館を活用した取組みということですが、学校図書館内の一人当たりの蔵書数は各小学校では差がないのでしょうか。つまり環境整備としてはどこも同じくらいのレベルになっているのでしょうか。

学務課長 基本的に文部科学省の定めました標準蔵書数というのがございまして、それに照らし合わせると、小学校は概ね標準の蔵書数に近く達成されている学校が多いです。中学校については、それに比べるとちょっと残念な状況にはあります。標準蔵書数というのは、学級数に応じてこれ位の蔵書数が望ましいという数値でございまして。

鈴木委員 その場合、標準蔵書数に近づける予算的なものはどうなんでしょうか。

学務課長 予算的には、墨田区の予算レベルは23区内でも標準以上の蔵書のための予算を確保しております。ただ、最終的には予算の執行については学校長レベルでやっておりますので、学校によって図書関連費の執行が少ない学校も見受けられるという状況もあります。

次長 もう少し補足をさせていただきますと、私どもとしましては各学校にぜひ予算を使い切ってもらいたい。それによって十分な蔵書を確保して児童・生徒の図書環境の整備を図っていただきたいというふうに申し上げていますが、各学校によって若干そういった温度差というかバラつきあるのが現状です。引き続き読書環境の整備につきましては、促していきたいと思っています。

高木委員長 単に本があるだけではなく、本も新しく交代していきますから見直す必要があるんです

よね。

次長 人手が足りないというのがありますが、その辺は学校図書館と区立の図書館の連携の中で、図書館職員も頑張っておりまして、各学校に入って「ぜひ図書館の活用をしていただくように」という働きかけをしている状況です。

学務課長 ちなみに今年の2月の図書関連費の調査では、小学校は23区で1校あたりの平均が5番目の予算規模になっています。それから、中学校は10番目ということで両者とも中位以上ということになっています。

横井委員 それに関連してですが、今、司書教諭は全校に配置されているんですか。

指導室長 はい、全校に配置されています。

横井委員 別件で、ICTに直接関わらないかもしれませんが、この間の文花中学校の視察で思ったんですが、指導要録の様式の出力はパソコンから直接出来るんですか？

指導室長 出来ます。

横井委員 そうすると、とても便利になりますよね。

高木委員長 他に何かご質問はございますか。よろしいでしょうか。それでは議決事項第2、議案第59号、「平成22年度における主要な教育課題について」は原案どおり決定することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

高木委員長 それでは、原案どおり決定いたします。

報告事項第1

学校管理業務の契約継続について、資料1のとおり庶務課長が説明する。

高杉委員 民間委託とシルバー人材センターとの比較で、経費的な面はどうなんですか。だいたい同一くらいでしょうか。

庶務課長 夜間の部分についてはほぼ同一です。

高杉委員 民間委託を何年かやっていますが、評判はどうですか。トラブルのようなものはあったんですか。

庶務課長 今まで委託している学校や地域関係者にヒアリングを行なっていますが、非常に評判はよろしいです。いろいろやってもらっているという話も聞いておりますし、業者の評判は非常に良いです。

教育長 これにつきましては、昨年もご要望いただいたものでございます。私どもといたしまして、ずっとこの間民間委託をする過程の中で、このご要望を受け止めているわけです。庶務課長から申し上げたとおり、一体的な運営を考えると、業者に全てを任せの方が合理的な配置ができるのではないかと。また、ある一方では、そうは言っても高齢者の方々の働く場を確保するという、そういう要請、社会的要請がある。そんな中で業務の内容に応じて適切に均衡を図りながら、進めさせていただきたいというつもりであります。そういう点では、関係の方々の要望を踏まえて今後具体的な議論・協議をしながら進めさせていただきたいと考えています。

報告事項第2

学校選択制度の応募状況（概要）について、資料2のとおり学務課長が説明する。

高木委員長 今年は例年になく多いんでしょうかね。

学務課長 そうですね。募集停止も3校ございましたので、そういった場合も含めて集中したというのもあったかと思います。

教育長 これを見ると二葉小学校などは1人しか受入可能数を超えていないので、微調整の結果受入数ぴったりになれば抽選をしなくて済むかもしれません。

学務課長 まだ到着していない希望票で、二葉小学校の学区の子が他の学校に行きたいということになれば、二葉小学校の見込み人数が1人減り、抽選がなくなるということもあります。

教育長 その可能性があるのは二葉小学校と横川小学校くらいでしょうか。あとは大幅に受入可能人数を超えていますから。

学務課長 その他の特色というかこの数字だけを見ますと、中川小学校が徐々に単学級を脱する可能性がある。ただ、今後抽選が終わった後に兄弟等が他の学校に通っている等の理由で学校を変更する指定校変更という制度もございますので、今の段階では2学級想定ですが場合によっては1学級になる可能性もあると思います。

教育長 小学校では1,716人の見込みを立てていますが、実際には50～60名程度は私立・国立中学校へ進学するというので抜けていきます。それから中学校の場合も1,643名の見込みを立てていますが、4分の1程度が抜けていくと考えなければいけません。抜けていくのは本所・両国中学校を希望している人が多いんですが、他の学校でも当該校と私立とをかけている方もいらっしゃいますから、この数字どおり、特に中学校の場合はそのまま入学するというものではない。かなり人数が少ない学校は結果として1クラスになってしまう可能性もないとはいえないと思います。

学務課長 中学校につきましては、例年1,300人前後になります。今は1,600人台ですが。

報告事項第3

幼稚園入園の応募結果について、資料3のとおり学務課長が説明する。

高木委員長 ここに書いてある11月6日現在で応募を締め切っているんですか。

学務課長 はい、そうです。あとは転居等で墨田区に来られた方に関しましては、空きのある幼稚園について入園を受けるということになります。

鈴木委員 3歳児の要望はあるんでしょうか。

学務課長 現在のところは特には聞いておりません。

高木委員長 ずいぶん余っているんですね。

鈴木委員 これだけの少子化の中で、公立幼稚園がこれだけ立派に人数を集められる、今の主流はどちらかというと3年保育の中で、しかも2年保育でやっている。この結果はすごいことだと思います。

報告事項第4

インフルエンザの発生状況について、資料4のとおり学務課長が説明する。

（特に意見なし）

報告事項第5

墨田区登録無形文化財の登録及び認定の解除について、資料5のとおり生涯学習課長が説明する。

高木委員長 そういう意味では惜しい方が亡くなったんですね。この方おいくつですか。
生涯学習課長 享年81歳でございます。

報告事項第6

荒川四ツ木橋緑地球技場の供用停止について、資料6のとおりスポーツ振興課長が説明する。

高木委員長 この荒川四ツ木橋球技場では何をやっているんですか。

スポーツ振興課長 主にサッカーをやっています。

高木委員長 以上で議決事項、報告事項はすべて終了しました。これで教育委員会を閉会いたします。